

**製品名: 切断型インテグリン  $\alpha 6$  LC (E942) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab08996**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、 $-20^{\circ}\text{C}$ で保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	28kDa

**抗原情報**

遺伝子名	ITGA6
別名	ITGA6; Integrin alpha-6; CD49 antigen-like family member F; VLA-6; CD antigen CD49f
遺伝子 ID	3655.0
SwissProt ID	P23229
免疫原	抗血清はヒト ITGA6 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 923-972

**背景**

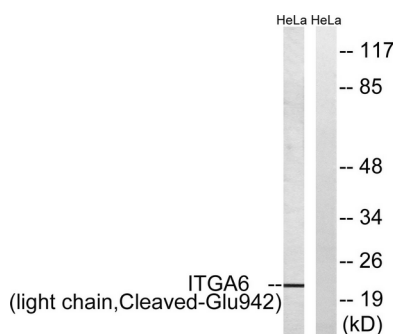
インテグリンサブユニット  $\alpha 6$  (ITGA6) ホモサピエンス この遺伝子は、インテグリン  $\alpha$  鎖ファミリーのタンパク質のメンバーをコードしています。インテグリンは、 $\alpha$  鎖と  $\beta$  鎖からなるヘテロ二量体の膜貫通タンパク質で、細胞表面接着とシグナル伝達に機能しま

す。コードされているプレプロタンパク質はタンパク質分解によって処理され、 $\alpha 6$  サブユニットを構成する軽鎖と重鎖を生成します。このサブユニットは  $\beta 1$  または  $\beta 4$  サブユニットと会合してインテグリンを形成し、ラミニンファミリーのメンバーを含む細胞外マトリックスタンパク質と相互作用します。 $\alpha 6\beta 4$  インテグリンは腫瘍形成を促進する可能性があり、 $\alpha 6\beta 1$  インテグリンは erbB2/HER2 シグナル伝達を負に制御する可能性があります。選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生成されます。[RefSeq 提供、2015 年 10 月]、代替製品: 追加のアイソフォームが存在するようです。少なくとも 4 つの選択的スプライシングドメインの組み合わせがあり、2 つは細胞外ドメイン (X1 と X2) で、2 つは細胞質ドメイン (A と B) です。これまでに検出されているのは、アイソフォーム Alpha-6X1A、アイソフォーム Alpha-6X1B、およびアイソフォーム Alpha-6X1X2A (マイナー) です。一部のアイソフォームについては、実験的な確認が不十分な場合があります。疾患: ITGA6 の欠陥は、幽門閉鎖を伴う表皮水疱症 (EB-PA) [MIM:226730]の原因です。これは、胃腸閉鎖を伴う先天性皮膚無形成症としても知られています。EB-PA は、粘膜皮膚の脆弱性と胃腸閉鎖を特徴とする常染色体劣性疾患で、最も一般的には幽門が侵されます。機能: インテグリン  $\alpha 6/\beta 1$  は、血小板上のラミニンの受容体です。インテグリン  $\alpha 6/\beta 4$  は上皮細胞におけるラミニンの受容体であり、ヘミデスモソームにおいて重要な構造的役割を果たしている。PTM: セグメント A を含みセグメント B を含まないアイソフォームは、PMA 誘導リン酸化の主な標的である。リン酸化はアイソフォーム  $\alpha 6X1X2A$  の「Ser-1103」で起こる。リン酸化はインテグリン  $\alpha 6A/\beta 1$  の高親和性の誘導には必須ではないが、リガンドに対する親和性を低下させる可能性がある。類似性: インテグリン  $\alpha$  鎖ファミリーに属する。類似性: 7 つの FG-GAP リピートを含む。サブユニット:  $\alpha$  サブユニットと  $\beta$  サブユニットのヘテロ二量体。 $\alpha$  サブユニットは、ジスルフィド結合で連結された重鎖と軽鎖で構成される。 $\alpha 6$  は  $\beta 1$  または  $\beta 4$  と会合する。HPS5 と相互作用する。RAB21 と相互作用する。組織特異性: インテグリン  $\alpha 6/\beta 4$  は主に上皮細胞で発現する。セグメント X1 を含むアイソフォームは普遍的に発現する。セグメント X1X2 を含むアイソフォームは、心臓、腎臓、胎盤、結腸、十二指腸、筋芽細胞、筋管、および限られた数の細胞株で発現し、常に普遍的なセグメント X1 を含むアイソフォームと共発現する。一部の組織 (例: 唾液腺) では、細胞質セグメント A を含むアイソフォームとセグメント B を含むアイソフォームが検出される一方、他の組織では、1 つの細胞質セグメントを含むアイソフォームのみが検出される (セグメント A は表皮、セグメント B は腎臓)。

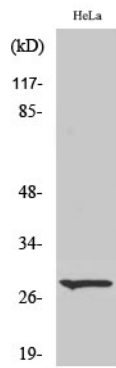
## 研究分野

接着斑、ECM-受容体相互作用、細胞接着分子 (CAM)、造血細胞系統、アクチンと細胞骨格の調節、がんにおける経路、小細胞肺癌、肥大型心筋症 (HCM)、不整脈性右室心筋症 (ARVC)、拡張型心筋症

## 画像データ



エトポシド 25 $\mu$ M で 24 時間処理した HeLa 細胞ライセートの ITGA6 (軽鎖、切断型グルタミン酸 942) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロックした。



切断型インテグリン  $\alpha 6$  LC (E942) ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析